石川県災害支援について

（5 班：2 月 8 日（木）～2 月 12 日（月））

報告　みのり薬局　滝沢尊子

薬剤師が 3 名でチームになり、県薬薬剤師会からレンタカーに乗り合わせ石川県に向かいました。

石川県羽咋市柴垣町にある青少年自然の家を拠点にして、珠洲、門前、輪島、穴水、1.5 次避難所の石川総合スポーツセンターに出向く形での活動でした。

新潟 5 班は輪島での活動を行いました、輪島市ふれあい健康センターを拠点にしており、そこでは東京、兵庫、新潟、三重（MF：モバイルファーマシー）の薬剤師チームが配置されました。

実際現地に入り活動を行ったのが 2 月 9 日からで震災から 1 カ月 1 週間ほど経過しており、その時点では、輪島での診療が再開されつつある段階で、災害処方箋は一枚も発行されず、復興の妨げにならないように、現地の活動を見守りつつ、必要な活動を行うというものでした。

そのため主な活動が 38 か所ある避難所を回り、避難している人数や感染症の有無、換気状況やトイレ、ごみなど公衆衛生の確認、OTC の管理や必要、要望があれば回収したり、受診や薬などの心配がないか聞いたりアドバイスをして回りました。

復興のために過度の支援は極力避け、OTC などは撤退させる方向でしたが、それぞれ避難所を回っていると、自分たちで対応できるため必要ないところも多い印象でしたが、OTC もまだ必要なものがあったり、よくわからないまま回収されてしまっているところもあり、実際に避難所を回り、見たり話を伺い状況を確認して行うことの重要性を感じました。

また、換気は避難所の管理者も「2 時間に 1 回 15 分」と意識して実行していたにもかかわらず、CO2 濃度がかなり高くなっているところがありました。CO2 濃度は人数や暖房器具の使用の頻度などによって大きく変わるため測定器で検査を行いながら細かく確認し対応する必要があると思います。

DMAT を含めた全体の会議、センターでの保健士さんや他職種との会議、宿舎で薬剤師全体の会議など 1 日 5 回のミィーティングがあり、他職種との連携や情報の共有などがとても重要であることも感じました。

過去の災害を経て、そういった連携のシステムが構築されてきているそうです。そういったところも見聞きしたり、実際に体験し学ぶことができました。

今回の支援で、かかわった方々は全国（北は北海道から沖縄まで）様々なところから支援に駆けつけており、「石川の復興の手助けをしたい」との熱い気持ちを持った人達ばかりでした。

輪島市は輪島塗の有名な瓦屋根と木造の情緒ある街並みでしたが、家が崩れ、瓦が散乱して道を半分ふさいでいる状況や、ひび割れて通れなくなってしまった道路、大きなビルが横倒しになっているところを見て、また多くの人が助けられず亡くなられたニュースを思い出し、本当に胸が苦しくなる思いでした。

被災された石川の方々の一日も早い復興をお祈りいたします。